

ニホンジカ・イノシシの 生息状況調査結果の報告



株式会社 野生動物保護管理事務所

この時間の内容

【二ホンジカ・イノシシ】

- ・ 個体数推定結果と将来予測結果報告

推定方法など

【推定方法】

- ・ 捕獲数に基づく階層ベイズ法（これまでと同様）

【対象範囲】

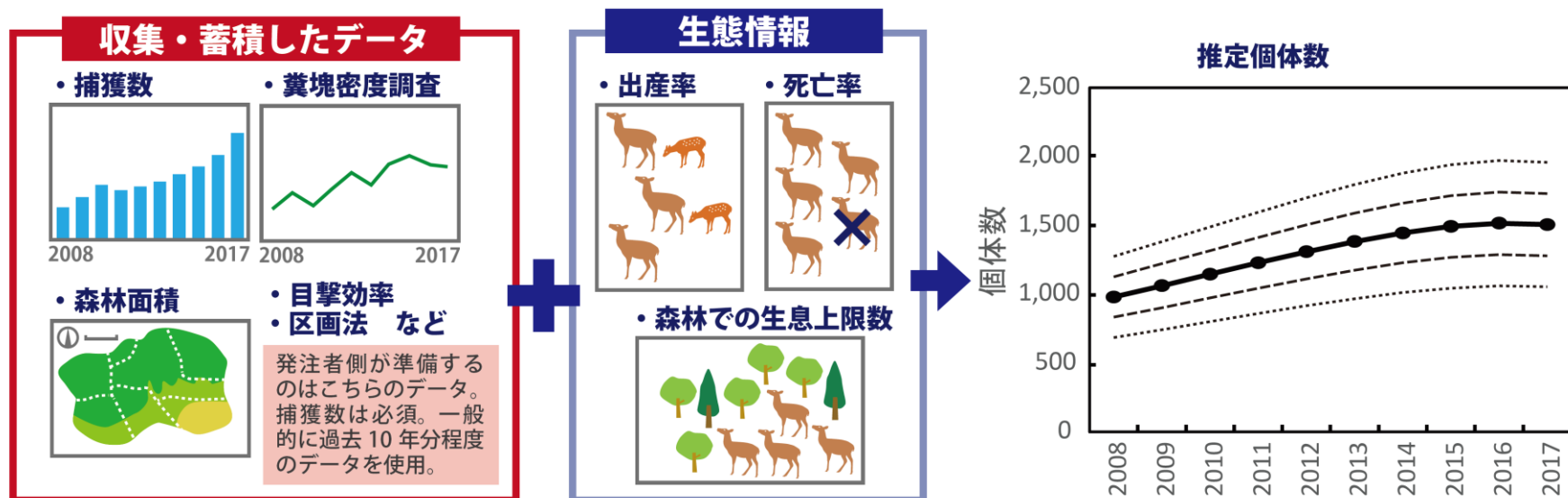
- ・ 岡山県全域

【推定期間】

- ・ 平成17～令和5年度

個体数推定モデルの概要

- ・ 野外の個体数はすべてカウントすることはできない
 - ・ 生息動向（増減）を反映すると考えられるデータは取得可能
- 収集データと既知の生態情報から個体数等を推定



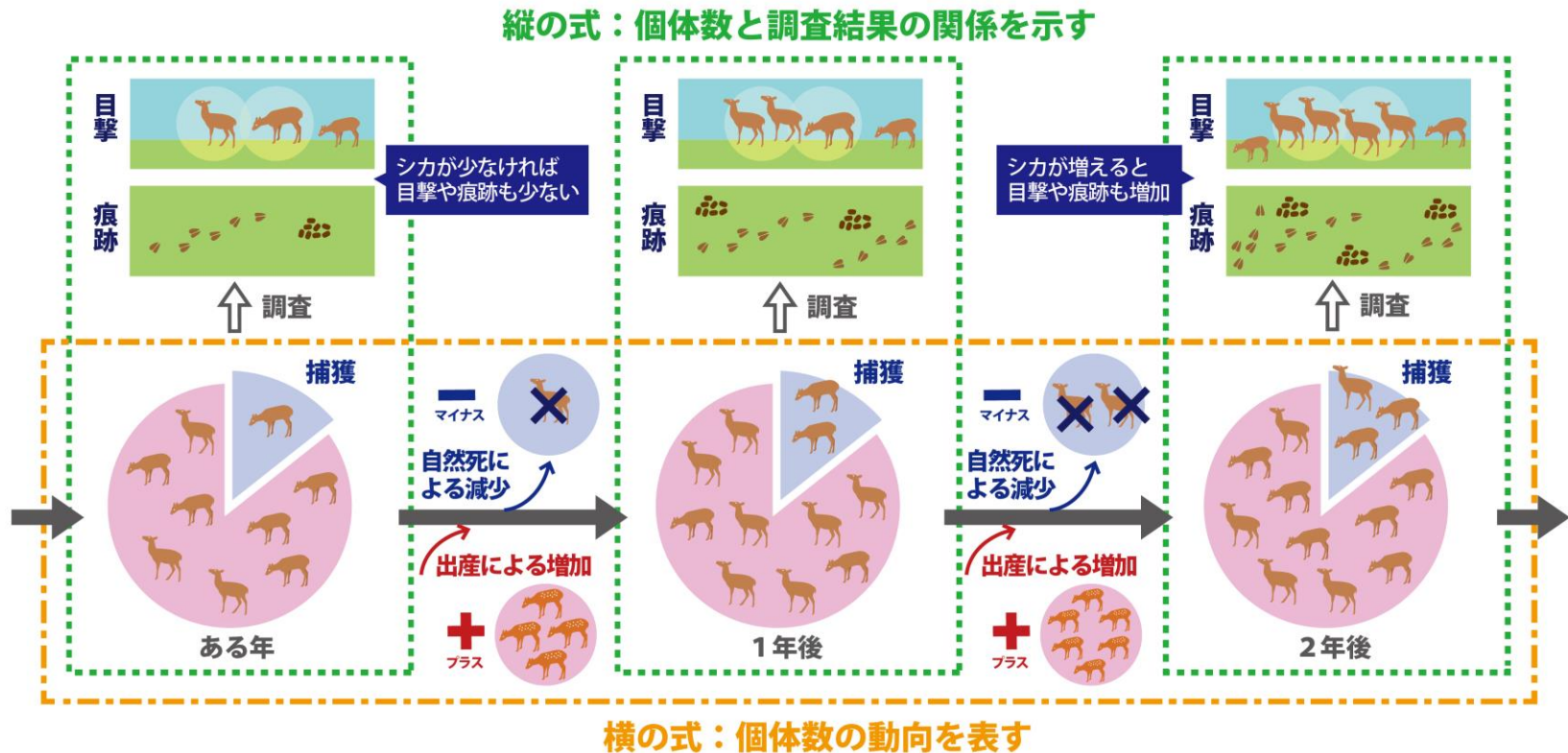
①個体数の動向を表す式

横の式： ある年の個体数 = 前年の個体数 × 年間増加率^(注) - 捕獲数

②個体数と調査結果の関係を示す式

縦の式： ある年の調査結果 = ある年の個体数 × 比例係数

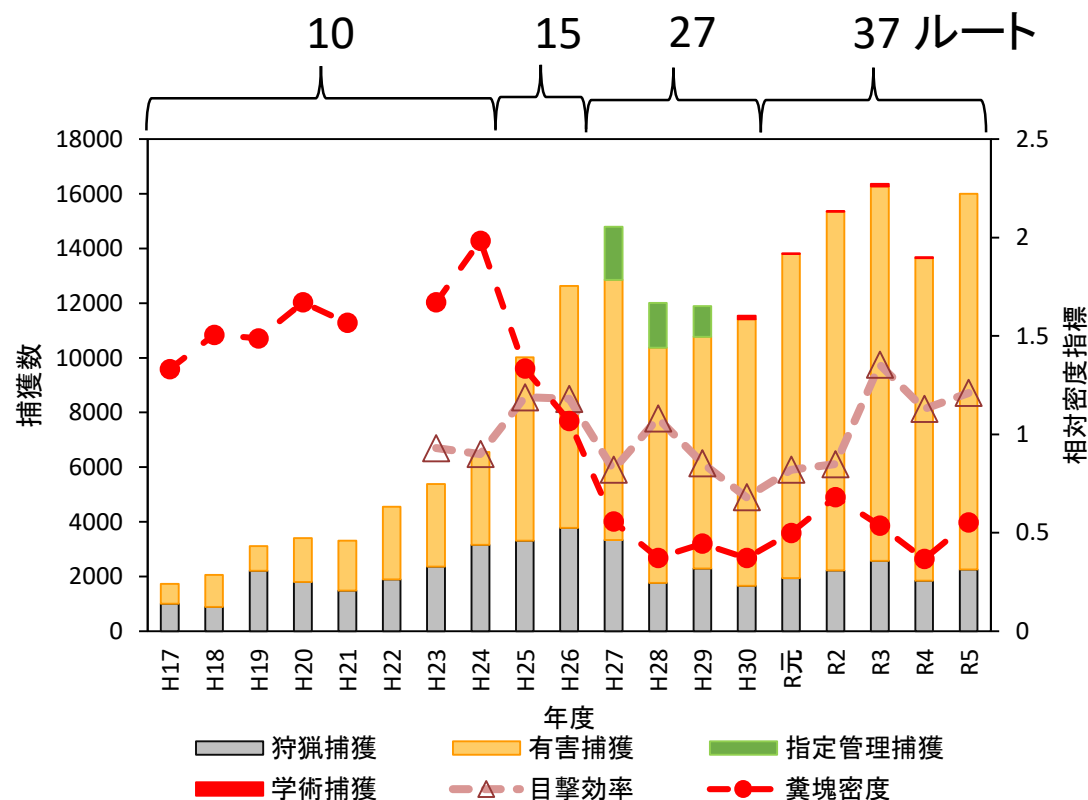
▶ 式と収集データにもっとも合う個体数等が推定される



推定に使用したデータ：ニホンジカ

- ・ 捕獲数
- ・ 目撃効率（狩猟）
- ・ 糞塊密度

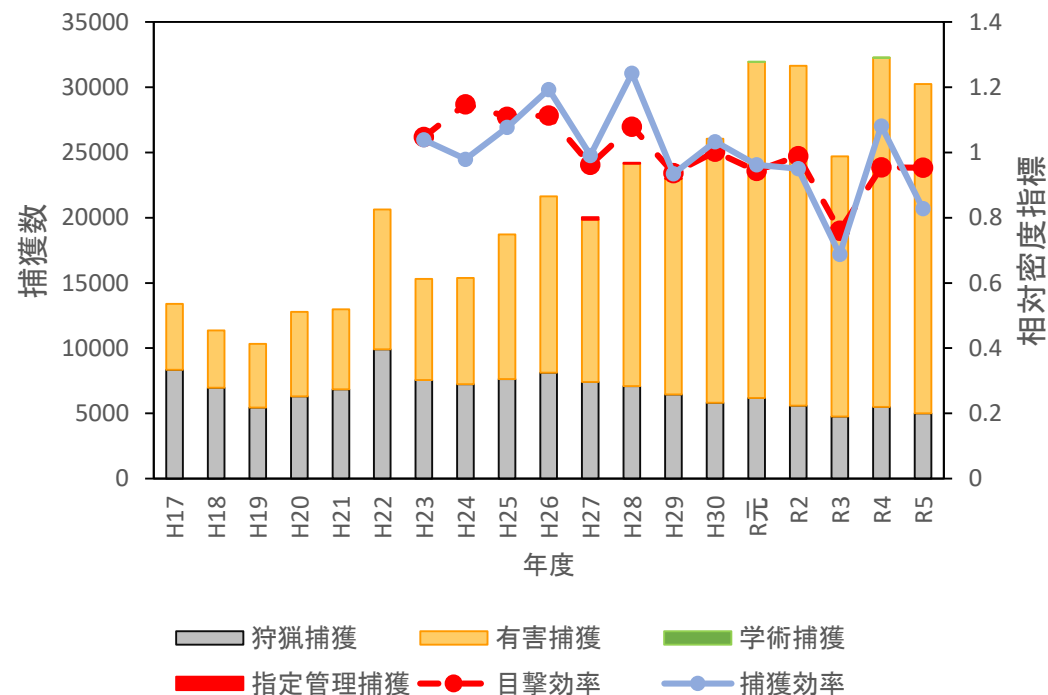
シカの分布拡大に合わせて調査ルートを追加



- 糞塊密度、目撃効率は平均を1とする相対値で示した
- 糞塊密度は、年によって調査対象地域が異なるため、期間中の数値は一概には比較できない

推定に使用したデータ：イノシシ

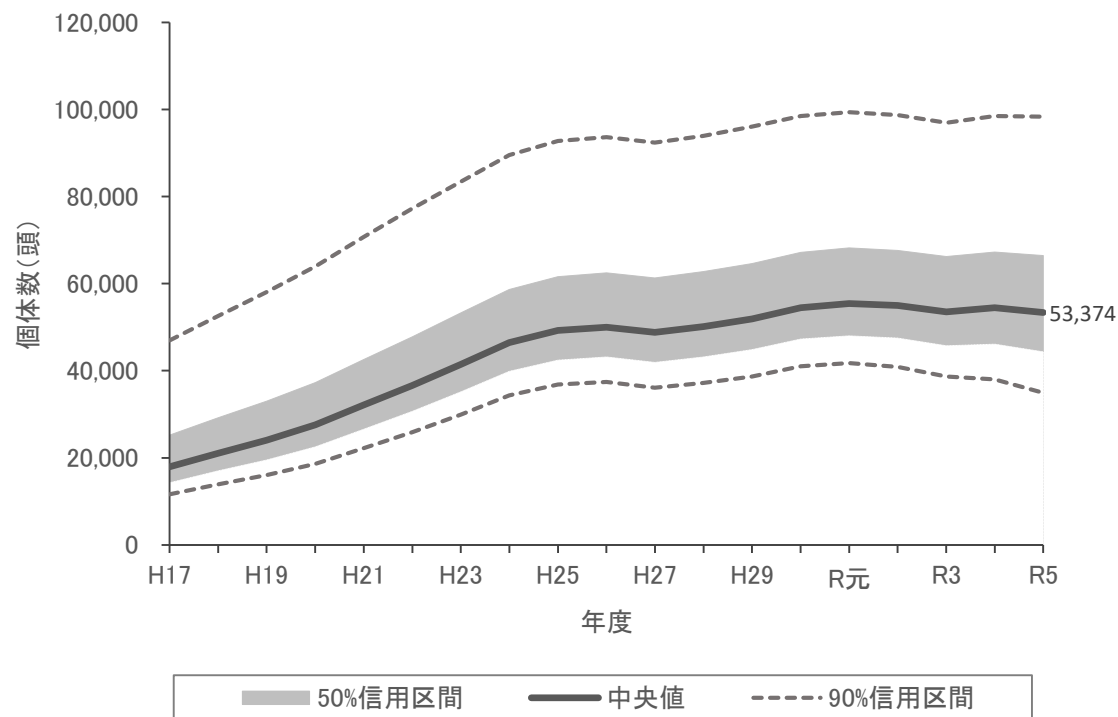
- ・ 捕獲数
- ・ 目撃効率（狩猟）
- ・ 銃猟の捕獲効率（狩猟）



■ 目撃効率、捕獲効率は平均を1とする相対値で示した

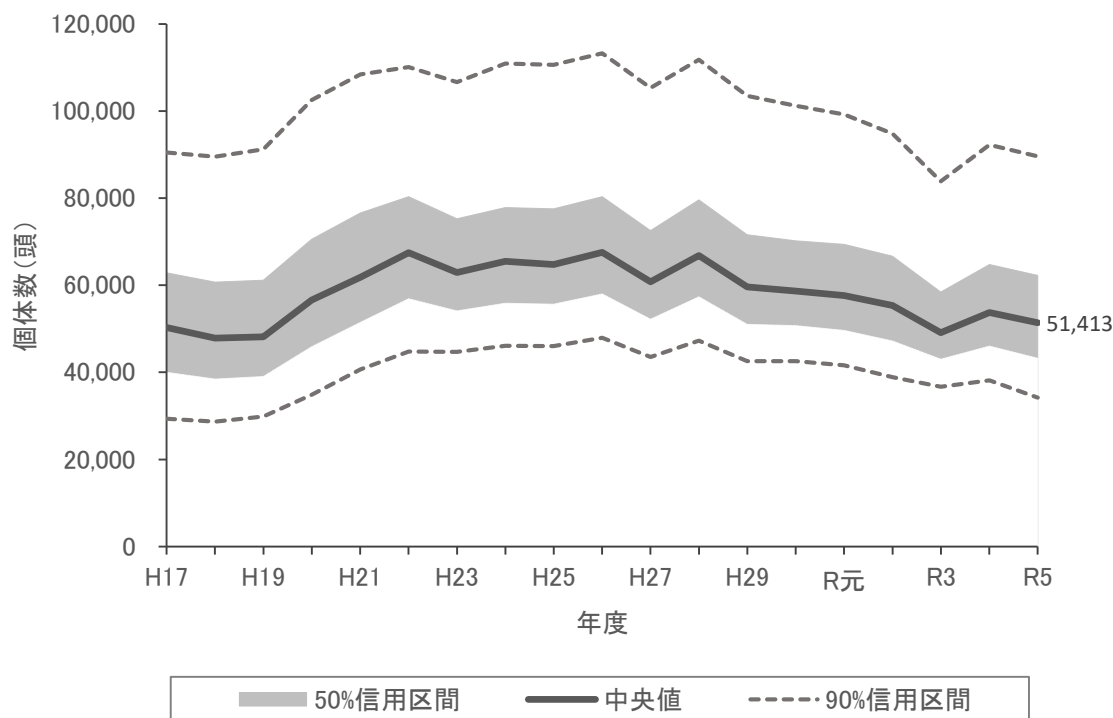
推定結果：二ホンジカ

- ▶ 令和5年度の個体数は、**53,374頭**（中央値）と推定
- ▶ 令和元年度ごろまでは増加傾向、近年はほぼ横ばい傾向



推定結果：イノシシ

- ▶ 令和5年度の個体数は、**51,413頭**（中央値）と推定
- ▶ 個体数は平成26年度がピーク、その後は横ばいから減少傾向



推定結果の解釈と活用

◆真の個体数はわかりません

- ・ **生息動向を把握**するための手法
- ・ 個体数の値ではなく、**現状の捕獲で増加／減少傾向かが重要**

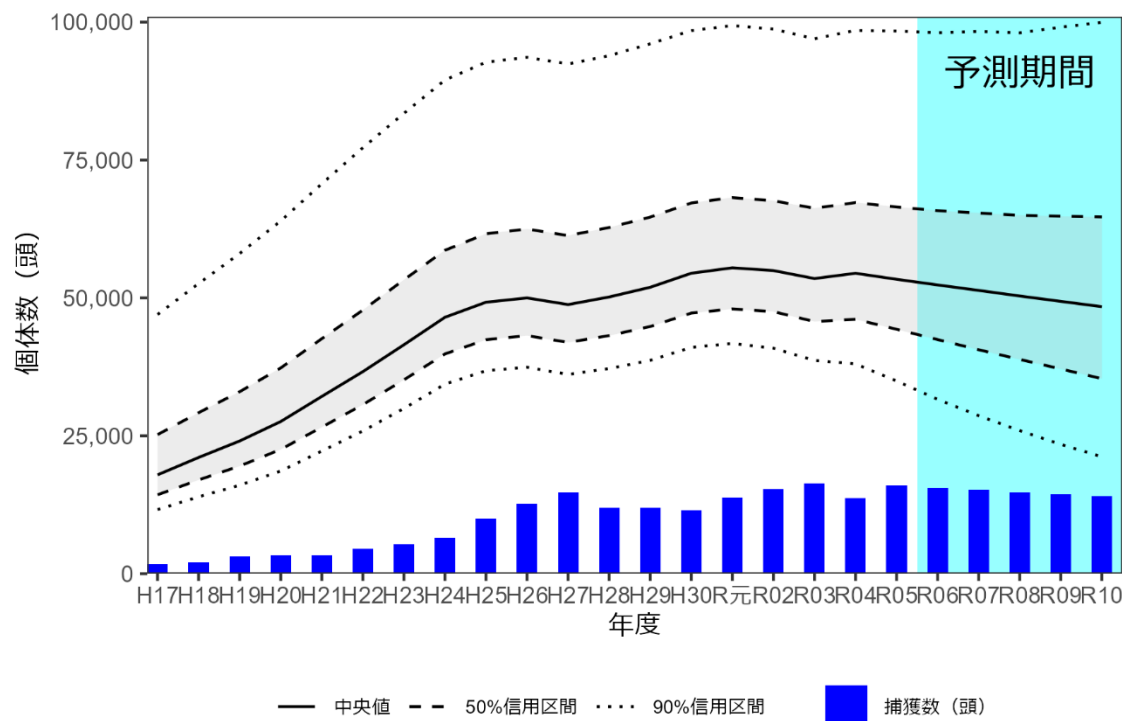


◆生息動向が把握ができたなら、次に必要なのは今後の生息動向

- ・ 現状の捕獲率を継続するとどうなるのか？
- ・ 環境省の半減目標を達成するために、どの程度の捕獲の強化が必要か？

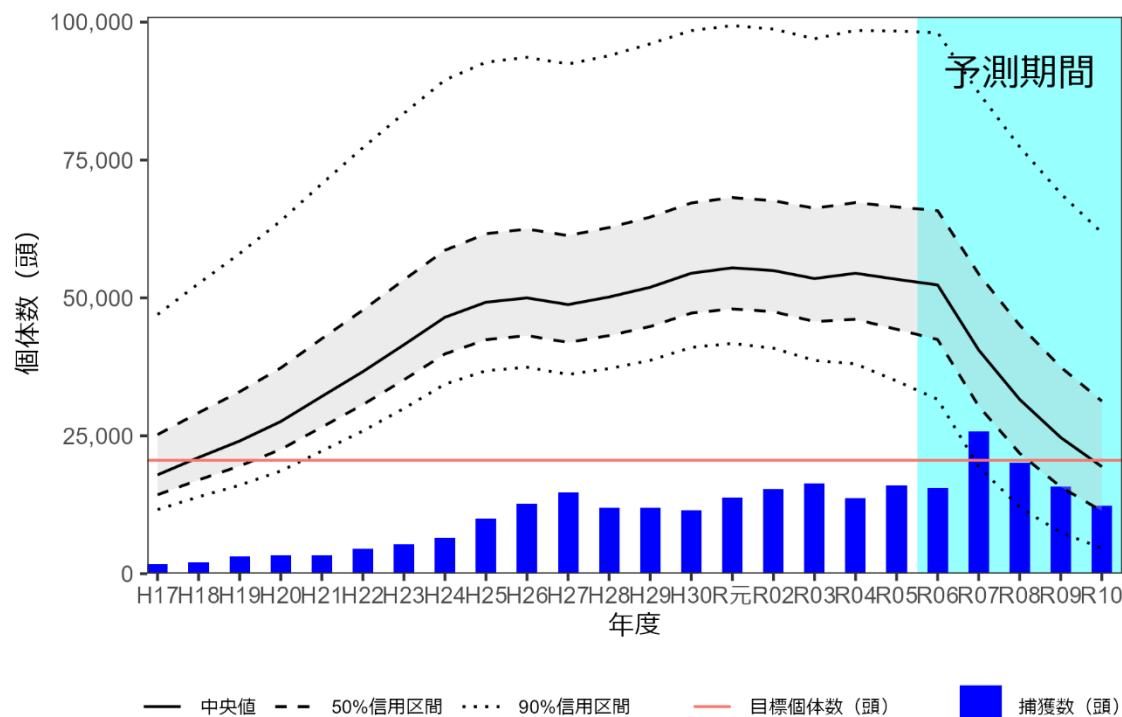
(環境省の半減目標：令和10年度までに平成23年度の個体数の半減)

令和5年度の捕獲率を継続した場合：二ホンジカ



- ▶ 横ばいに推移し、令和10年度には48,409頭（中央値）と予測
- ▶ 環境省の半減目標（令和10年度に20,750頭）の達成は難しい

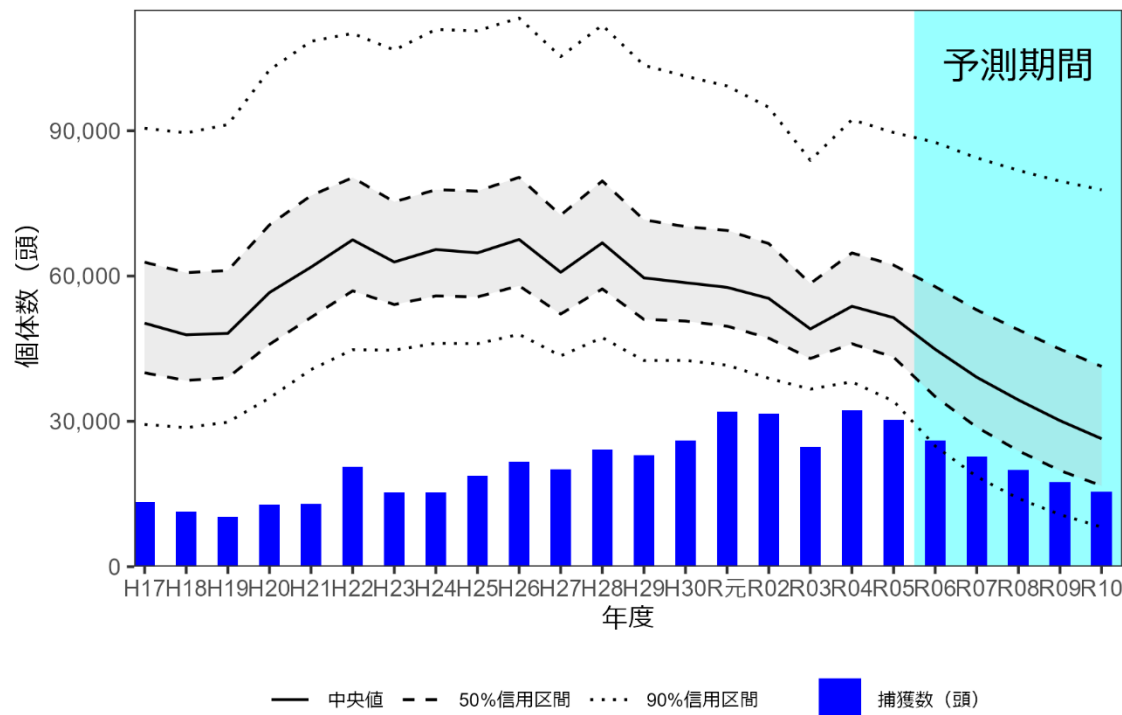
環境省の半減目標を達成するための捕獲率：二ホンジカ



▶環境省の半減目標（令和10年度に20,750頭）を達成するには

令和5年度の捕獲率の**1.7倍の捕獲率**が必要と予測

令和5年度の捕獲率を継続した場合：イノシシ



- ▶ 個体数は徐々に減少し、令和10年度には26,415頭（中央値）と予測
- ▶ 現行の捕獲で環境省の半減目標（令和10年度に31,450頭以下）が達成可能

個体数推定精度向上に向けて

◆ 推定結果は精度が低い

- ✓ ニホンジカ、90%信用区間：34,926～98,385頭
- ✓ イノシシ、90%信用区間：34,186～89,624頭

◆ 推定の精度はデータに依存

- ✓ モニタリングデータの継続的な収集
- ✓ データは複数種類あった方が良い
 - 出猟カレンダーは、狩猟者さんの協力が重要
 - 有害捕獲の割合が多いため、狩猟に関する情報だけでなく、有害捕獲に係る情報の収集を進めることが必要
 - 特に**イノシシは野外調査がない**ため、捕獲の記録が非常に重要

